



若みどり

〈教育目標〉 人を大切に 時間を大切に 物を大切に

<http://www.mitaka-schools.jp/sanchu-jhs/>

No. 8

令和6年1月31日発行
三鷹の森学園三鷹市立第三中学校
校長 並木 茂男

画竜点睛(仕上げつなぐ学期) ～令和6年度の三中を見据えて～

校長 並木 茂男



新しい年、令和6（2024）年となり早くも1か月が過ぎようとしています。15～17日には第2学年が、川上村自然教室に行き、晴れ渡る青空の下、のびのびとスキー実習を体験してきました。

3学期は、1年間の学習の仕上げを行い、次の進級、進学に備える大切な学期です。学校としても、すべての教育活動を通じて目指してきた資質・能力である、

自ら課題を見出し、その解決に向け他者と協働して考え、判断し行動することができる力
(=「生徒主体の力」)

を一人一人に育成できたかを、学校・学園評価や年度末反省等を通じて振り返り、来る令和6年度の教育課程（1年間の教育計画）を編成の準備を進めています。

三中では、引き続き「全人教育を進める地域と共にある学校」として、生徒一人一人を大切に、地域社会に生きる一人の社会人としての市民性の基礎を身に付け、変化し続ける社会を生き抜く人間力・社会力を育てていきます。

■全人教育

三中では、義務教育の仕上げともいえる中学校3年間で、生徒に、知力、徳性、体力のバランスの取れた育成を図っています。生徒一人一人を「一人の個性を持った人間」として多様性を大切にしつつ、基本的な学力、社会性、人間性等について、教育活動全体を通じて育成していきます。中学校段階では、人としての総合的な力を「生涯学習の基礎」として育むことが求められます。勉強だけ、スポーツだけの人間ではなく、多様な学習機会を計画することにより、勉強も部活動も、学校生活も社会生活も、他の人と協力しつつ自立し生きて行くことができる主体性と責任感のある人間を、現在および未来の社会における大切な「人財」として学び育つ環境の整備を推進します。

■地域性を生かした教育活動

地域で暮らし育つ同年代の人たちと、いわゆる顔が見える関係の中で共に学び、成長していくのが、公立小・中学校の強みであると考えます。また、学校は社会の縮図ともいわれます。いろいろな人がいて、互いに個性や違いを認め合いながら協力して生きていく社会性を学べることも公立ならではの長特です。日本の学校教育のガイドラインである「学習指導要領」（文部科学大臣告示）は、全国一律に一定の教育水準を確保する目的で規定されていますが、その中でも「学校や地域の実態を十分考慮して」教育課程を編成することが示されています。コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育に取り組む三鷹市の恵まれた教育環境を生かし、「地域とのつながり」を活用した三鷹の森学園らしい教育活動をさらに充実・発展させていきます。

■「画竜点睛」～仕上げつなぐ学期～

今年の干支は辰年です。「画竜点睛」は、竜の絵は最後の瞳（睛）の仕上げが絵の出来栄を左右する大事な作業であることから、「最後の仕上げの大切さ」を表す故事成語です。1年間の仕上げをしっかりと行い、3学期の向こう側を見据えて、充実した1年間の仕上げと、春、生徒一人一人が、桜舞う中、希望に満ちた表情で迎える次のステージにつながる有意義な学期となるよう「画竜点睛」の教育活動を進めてまいります。

今年もどうぞよろしく願いいたします。

三中 School Life

○あいさつ運動

1月10日(水)～1月15日(月)に、あいさつ運動が行われました。「アイ・サンチュウ」のスローガンのもと、登校時に、お互いに挨拶をしようの音が響き渡っていました。



○授業公開・道徳授業地区公開講座

1月11日(木)～1月13日(土)は、授業公開を行いました。その中で1月13日(土)3校時には、道徳授業地区公開講座として、全クラス道徳の授業を行い、保護者や地域の皆様に参観していただきました。授業後の意見交換会やアンケートなどで多くのご意見をいただき、感謝申し上げます。皆様からいただいたご意見は、今後の授業改善や道徳教育の充実に役立てていきます。



○1年救命講習会

1月16日(火)と17日(水)に、三鷹消防署から講師をお招きして救命講習を行いました。救急救命について説明を受けたあと、心肺蘇生法とAEDの使い方について、実習を行いました。



○昼休み体力づくり

昼休みの時間を使って、学年ごとに体力づくり運動を行いました。友達と声をかけ合い、体を動かすことを楽しむ生徒の姿が見られました。

